合名会社

鈴木商店の履歴書

―覚え書から―

〔沿革〕

一、明治十年鈴木岩治郎名義を以て神戸に於て創立す。当時の業務は砂糖販売及洋銀売買なりし、但洋銀売買とは当時日本の貿易は総て銀本位なりしも通貨は不換紙幣なりしを以て銀紙の間に時に高低ありしが仲次を為すものを洋銀売買商と称えたり。

一、明治二十二年樟脳貿易を開始す。

一、明治三十三年英国倫敦ミンシングレーシニナ九号に支店を設置し砂糖の買入及日本天産物販売を業とす。

一、同年台湾に於て樟脳専売法実施せらるるに及び樟の油より採取する粗製樟脳の製造を一手に同総督府より命令せらる。

一、明治三十五年十月一日日本商法を遵奉し組織を合名会社に変更し神戸区裁判所に登記を受く。

一、同年倫敦支店を閉鎖し同地及漢堡、紐育に代理店を設置す。但現在英国に於ける代理店は倫敦ブライスグリーンショー現エンドコンパニーリミテッドなり。

一、同年神戸葺合に薄荷製造所を設け薄荷製造業を開始す。

一、明治三十六年門司市外大里に精糖工場を設置し初めて精糖業に従事す。之を合名会社鈴木商店大里製糖所と称す。

一、同年住友吉左衛門の経営に係る神戸葺合所在樟脳精製所を買収し樟脳精製事業を開始す。

一、同年神戸製鋼所を買収し製鋼事業を開始す。

一、同年精製樟の樟脳油共通専売法実施せらるるに及び大蔵大臣より樟脳油より採取する粗製樟脳の製造を一手に命令せらる。

一、明治三十九年大里製糖所を株式組織として鈴木商店より分離し同時に鈴木商店の社員は総て其重役を兼ぬ。

一、同年魚油精製所を神戸葺合に設け魚油精製事業を開始す。

一、明治四十年株式会社大里精糖所を大日本精糖株式会社へ売却す。

一、明治四十二年札幌所在の製粉所を買収し株式組織の下に製粉事業を開始す。

一、同年門司市外大里の弊店所管地に対し私設税関仮置場の設置を大蔵大臣より特許せらる。仮置場は彼の自由貿易地帯と同一の働きを為すものにして之を民間に許されたるは弊店を以て嚆矢とす。

〔現在の業務〕

一、砂糖の売買、英国に於ける代理店はシー、ザーニュウなり

一、麦粉の製粉及販売

一、日本天産物の輸出、英国に於ける代理店ブライスなり

一、製鋼

一、樟脳専売法に基き台湾総督府及帝国大蔵大臣より命令せられたる粗製樟脳の一手製造

一、樟脳の精製

一、薄荷脳及薄荷油の製造

一、魚油の精製

一、私設税関仮置場(門司市外大里)

〔特色〕

総ての事業何れも半ば独占的のものにして且将来着手せんとする事業も亦独占的の性質を帯びたるものを撰み投機的性質を有するものは厳て之を避くるを以て本社―基礎頗る鞏固なるにあり。

〔株式会社日本商業会社〕

資本金 五十万円

設立 明治四十二年三月一日

業務 米穀、銅、棉糸、樟脳、薄荷、魚油、白蠟其他天産物各種直輸出、米穀、棉花、棉糸、反物、洋毛、洋糸、人造絹糸、パルプ、洋紙、肥料、砂糖、金属類、化学工業品、薬品、機械類、小道具類等直輸入販売。

特色

定款に於て総ての重役は無報酬とし且十ケ年間利益配当をなさざる事を規定せり、是れ会社の基礎を鞏固ならしむるにあり、本社は内外人の共同によりて経営せらる。総ての重役は何れも二十ケ年以上海外貿易に従事したる最も老巧にして信用を有する人々(高信氏のみは弁護士なり)を以て組織せられ且つ専務取締役の独逸人ポップ氏の如きは日本に来朝以来三十七年間問題なく日本の輸出貿易に従事したる経歴を有す。即ち斯の如き基礎の下に設立せられたる商事会社なるを以って日本の海外貿易に対しては特殊の技能と経験を有し従来日本の貿易が外国人のみによりて営まるるか、又は日本人のみの商社により営まれたるため一方の事情に通ずれば他の一方に暗く、ために商取引の疎通を欠き時機を誤まりたるが如き弱点を有せず。

中風身障から社会復帰まで

久　琢　磨

別稿のごとく、今秋の辰巳会ゴルフ大会では不計も私が初優勝し高畑杯をいただいた、というと大変カッコヨク聞えるが、その実はアウト六二―イン五三―計一一五という大波の大スコアーで、お恥かしい成績、中風ビッコの身体障害ということに、会員の皆さんが同情されて三六という最低のビギナーハンデーを許して下さったおかげで、ネット七九でメダリスになった次第で、全くのお情け優勝である。皆さんのご同情に甘えて誠に申訳ないと感謝とともに反省しています。一ばん後からあがってきて、宴会場に入るなり皆さんから「久さんお目出度う、あなたが優勝です。よう頑張りましたね」と祝福され、全く予期しなかったことで、面喰った次第でした。先だって朝日新聞社のOBゴルフ大会でも同じような状況で、最後に上ってきた私がカードを出すとネット七一で、一ポイントの差で優勝だった。口矢ケましい新聞の連中だからさぞかしお叱りを蒙るかと宴会の片隅に坐して縮こまっていると、「優勝者は上位じゃ」と社長の隣に押し上げられ「久君おめでとう、よくここまで頑張って復活した、皆さん久君の復活のために乾盃、おめでとう、来年からはハンデーを二割上げの二九にする」とのことでほっとした。辰巳会でも来年は一人前のハンデーに上げて頂きたいと願っておきます。

さて、私はこの十年来中風の後遺症の克服に過ごした訳ですが、なんといっても老後の一番の敵は脳出血いわゆる中風です。友人知人のうちでも倒れて悩んでおる人も少くないが、一度この中風で倒れると、社会復期をすることは仲々ムツカシイ、皆さんとも随分努力しておられるようだが、自分で自分の体を動かすのに、こんなにもえらいものかと私も大変はがゆい思を繰りかえした。自分でもどの程度まで頑張ってよいか不安だし、医師も家族も生命の大切をとって、あまり頑張らせないのが一般で、そのためレハビリテートする率が非常に低いのが事実です。私のように殆んど完全に近く回復しゴルフまで一人前に出来るように復活した例はむしろ例外中の例外らしい。辰巳会の嶋内幹事から、

「久さんが決死的に頑張ってここまで復活された努力には敬服しています。友人知巳にも中風に悩んでいる者も多いし、我々もだんだん老化現象が起り、罹病の危険も多いので、具体的にどんなにして克服して回復したかを〃たつみ〃に書いて下さい」

との熱望がありましたので、ごく簡単に私の体験の要点を述べてご参考に供したい。一口に中風と言っても脳血栓、脳出血、脳軟化症、卒中と一人一人個人差がありますから、千辺一律には申し難いが、私の場合は中程度の脳出血で、幸にも早朝家庭内に倒れ、自分自身で中風と自覚して、安静にして再度の出血を防ぎ、直ぐ医師の手当を受けたばかりでなく、自分の亡妻の中風を十三年間も看病した経験を持っておったことが、非常に幸したと思う。何らかのご参考にならば幸甚である。

一、発病―倒れた直後一両日は再出血、血栓の続発しないように絶対に安静に寝かす。

二、この期間を経過すれば患部は癒え、再出血、再血栓のおそれはないから、医師の指示に従って不随になっている身体の各部分をぼつぼつ動かしはじめることが最も肝要である。この時機を失すると運動力の回復を非常に長びかせるばかりか、不可能にすることも多い、私は意識の